

共同研究 功存『願生帰命弁』の本文研究（一）

——刊本の翻刻紹介——

主 任 殿 内 恒

研究員 井 上 善 幸

堀 祐 彰

那 須 良 彦

藤 田 真 証

はじめに

従来なされてきた三業惑乱の教義的研究は、大瀛（一七五九—一八〇四）の『横超直道金剛辨』に代表される宗門の正統教学に中心を置く視点からのものが、多数を占めている。そこでは三業派（学林派・新義派）の文献は、ただ正統教学からはずれた内容のものとしてのみ扱われ、それらの各文献が三業惑乱全体においていかなる位置づけを持つのかは等閑に付されてきた。翻って正統教学の文献についても、実はさきの『横超直道金剛辨』以外にはさしたる言及もなされていないのが現状といえる。だが実のところ、三業惑乱には少なくとも十数年にわたる論争の展開があり、その全体像を把握するには、論争の中で著された諸文献の、それぞれの位置づけを確認することが欠かせないこととなろう。本共同研究では上記の視点から、中でも刊行という形で広く世に出された個々の論争書に注目しつつ、三業惑乱において展開された論争の内容と、さらに関連する当時の書籍刊行についての説明を目的とし、三業惑乱をめぐる諸文献の翻刻と註釈的研究を進めてきた。本稿は、その研究成果の一端として、三業惑乱の発端とされる功存（一七二〇—一七九六）の『願生帰命弁』の翻刻紹介を行うものである。

『願生帰命弁』は、宝暦十二（一七六二）年、無帰命安心の異義を唱導していた浄元寺龍養^①を調理した際の著述がもととなり、二年後の宝暦十四（一七六四、明和元）年に刊行されたものである。その内容については、すでに道粹（一七一三—一七六四）から疑問が出され、功存がこれに答えた「帰命弁問尋」「靈山師答問」^②にも見られる通り、無帰命安心に対せんがためのある種の傾向が、刊行以前から一部の宗学者により不安視されていた。だが当の道粹もその刊行に際しては序文を寄せており、また刊行から五年後の明和六（一七六九）年に功存は第六代能化に就任しているのであり、これらのことからみて刊行当時、「願生帰命弁」を表だつて問題視する趨勢にはなかつたとも思われる。だがその後、この「願生帰命弁」の内容をめぐる論争から最終的に三業惑乱にまで展開していくこととなるのであり、その意味からも、発端に位置する著述としての「願生帰命弁」の研究が、三業惑乱の教義的研究において重要であることは衆目の一致するところである。

だが、実はこれまで『願生帰命弁』自体の翻刻は、ほとんどなされてこなかつた。今般の研究にあたり、龍谷大学大宮図書館蔵書を検索したところ、明治三十（一八九七）年の刊本が『願生帰命弁』の唯一の活字翻刻本であり、それ以外はいずれも「宝暦十四年」の刊記を持つ木版本か、その書写本あるいは影印本であつた。^③ こうした状況の中、今後の資となるべく本稿に『願生帰命弁』の全文を翻刻紹介することとしたものである。そこで、六本蔵されていた「宝暦十四年」刊本の中、いずれを底本として用いるか検討してみたところ、実は六本の文言の間で微妙な相違が見出され、少なくとも三種のもの（推定刊行順に、私に初刻本・再刻本・三刻本と呼ぶ）が「宝暦十四年」刊本に含まれていることが判明した。^④ その中に、明和元（宝暦十四）年の夏に功存自身が学林に寄贈したと目される一本があり、これは内容や印刷状態から初刻本とみられるため、基本的にこの本の翻刻紹介を行うこととし、後刻本（再刻本・三刻本）にみられる文言の相違等については註で適宜紹介することとした。

なお、共同研究の今後の方針としては、今回の翻刻をもとに『願生帰命弁』の註釈的研究、並びにその成り立ちについての検討を進め、さらに続く論争書の研究にも取り組んでいく予定である。また、今回の翻刻をご了承くださった龍谷大学大宮図書館にこの場を借りて御礼申し上げ、あわせて、共同研究員とともに実務的な作業に助力を賜った浄土真宗本願寺派教学伝道研究センターの井上見淳氏、並びに元龍谷大学大学院生の島田一道氏に御礼申し上げまするものである。

註

(1) たとえば「真宗人名辞典」(法蔵館)「功存」の項には「淨願寺龍養」と記されているが、龍谷大学大宮図書館蔵の和書に「淨元寺龍養異解始末」があり、その本文中でも冒頭の一箇所に「淨願寺」とある以外すべて、全八箇所にわたり「淨元寺」が用いられているため、ここではそれに従った。

(2) 「真宗全書」六二所収の仰誓編「真宗小部集」巻一に収録された篇名による。なお、龍谷大学大宮図書館蔵の書写本には、二篇を合冊した「歸命弁問尋答釈」が、また貫知編「悲歎本願訣等数条」に収録の「歸命弁疑難」「歸命弁々疑」が、同内容の別本として見出される。

(3) 唯一蔵されている活字翻刻本は、京都の西村護法館から明治三十(一八九七)年八月に発行された小部のものであるが、残念ながら現在、全四二頁中

二二頁から三六頁までの一六頁分を欠いている。その他、「宝曆十四年」の刊本が六本、書写本が一本、知空「南窓塵壺」・峻諦「北窓偶談」・義教「閻寮壁聞」と合冊の形で荒尾元正寺から昭和五十一(一九七六)年四月に発行された影印本が一本、龍谷大学大宮図書館に蔵されている。

(4) 文言相違の具体例としては、初刻本・再刻本で「詠セシ」とある箇所が、三刻本で字を詰めて「詠シ玉ヒシ」と改められている箇所(上22丁裏)や、初刻本で墨書の註記内容が、再刻本・三刻本で版におこされている箇所(上2丁表)等が挙げられる。

(殿内 恒)

底本書誌

- ・冊数、装丁：二冊(上巻・下巻)、袋綴(四穴)、縦二七・〇糎、横一八・〇糎、本文は子持枠内、表紙・裏表紙は茶灰色無地
- ・表紙：表紙左上に印刷題箋貼付・見返中央に大字で墨書「學林蔵本」(上巻・下巻とも)、裏表紙見返中央に墨書「明和元「甲申」夏全部二冊奉納／越前臘満／功存」(上巻)、「明和「甲申」夏奉納／越前臘満／功存」(下巻)
- ・題箋：子持枠内、上方横野の上段〇内に心持ち小字で横書き「眞宗」、下段に縦書き「願生歸命辨」、下方に心持ち小字で「上」(上巻)。「下」(下巻)
- ・丁数：序文一丁・本文二十九丁(上巻)、本文二十六丁(下巻)
- ・行数、字数：半葉七行・一行十五字(序文)、半葉十行・一行二十字(本文)
- ・版心：天から「〇願生歸命辨序」(序文)・「〇願生歸命辨上」(上巻本文)・「〇願生歸命辨下」(下巻本文)、下方横野下に丁数表示、最下方に「一止人蔵」

・内題…上巻は首題・尾題とも「願生歸命辨卷之上」、下巻は首題のみ「願生歸命辨卷之下」（尾題なし）

・刊記・奥付「寶曆十四年〔甲申〕正月吉旦／洛下書肆〔寺町五条上ル西側伊勢屋〕額田正三郎 壽梓」、下巻本文末の上下に丸みを帯びた子持枠内に心持ち小字で暢道・廉溪・玄仗らによる刊語あり

*以下の翻刻では、奥付は省略した。

本文構成

本文全体は、基本的に両巻を通じて全六門から成り、加えて追加等が示されている。また冒頭には道粹による序文が、末尾には暢道らによる刊語が置かれている。以下に、本文に沿った略科段を、冒頭の一節・丁数を付して示しておく。なお、科段の各項目名は私に付した。

序文	「美玉也人得而寶焉」	……	序1丁表
総説	「問曰吾宗ニ相承スル」	……	上1丁表
第一門	「第一先釋名義トハ」	……	上1丁裏
第二門	「第二正學相狀トハ」	……	上5丁裏
第三門	「第三通辨道理トハ」	……	上8丁裏
第四門	「第四明出文證トハ」	……	上15丁裏
第五門	「第五因引例證トハ」	……	上26丁表
因説	「因ニ他ノ例ヲ出シテ」	……	上28丁裏
第六門	「第六廣通妨難トハ」	……	下1丁表
問答1	「問云世上ニ已ニ佛ヲ」	……	下1丁表
問答2	「問愚昧ノ人雜行雜修等ヲ」	……	下1丁裏

問答3	「問タノミシ時ハタタ」	……	下2丁表
問答4	「問タノミシト云ハカリ」	……	下3丁表
問答5	「問然ラハ如來ヲ」	……	下4丁裏
問答6	「問已ニ眞實ニ願生心ハ」	……	下5丁表
問答7	「問ソノ身口ヲ表スルハ」	……	下5丁裏
問答8	「問異解者流ノ僧俗」	……	下6丁裏
問答9	「問心ニタスケタマヘト」	……	下7丁裏
問答10	「問有人イハク念念ノ」	……	下8丁裏
問答11	「問上ノ如クナラハ」	……	下9丁裏
問答12	「問祖師ノ佛智ノ不思議ヲ」	……	下10丁表
問答13	「問有人ハ彌陀ヲタノム」	……	下10丁裏
問答14	「問有人ノ立ルハ」	……	下11丁裏
由来	「上來所辨ノ趣ハ」	……	下14丁裏
追加	「追加ノ或カ來テ問曰」	……	下16丁裏
問答1	「或カ來テ問曰」	……	下16丁裏
問答2	「又問云僧侶ノ唱導ノ」	……	下20丁表
問答3	「問曰論註ニ一念十念ヲ」	……	下22丁表
問答4	「問曰未燈抄ニ一念發起ノ」	……	下23丁表
問答5	「因ニ問信ト行ト報謝トノ」	……	下24丁表
追説	「又更ニ小子ニ示ス」	……	下24丁裏

翻刻凡例

一、表記について

- (1) 紙数の都合から上・下二段組にし、底本の表記に則り漢字・片仮名交じりで表記した。
- (2) 漢字は原則として旧漢字の通行体を用い、略字・踊り字等は本字に戻して表記した。
- (3) 漢文等に付された訓点、並びに一部の片仮名に付された濁点は、本文に表記せず註に示した。
- (4) 割註等の小字は前後に「」を付して表記した。
- (5) 改行については、原則として底本文の体裁通りに、割註は二行を一行扱いとして翻刻した。ただし、割註により一行字数が多く、底本の一行分が印刷上二行にわたる場合、二行目の冒頭に*印を付して表記した。
- (6) 丁数については各半葉冒頭の()内に略記した(初に序文・上巻本文・下巻本文の別を頭文字で表記し、次に丁数を表記し、後に表裏の別を表記した)。

二、註記について

次の各箇所については、該当する本文の右傍に註番号を付し、末尾にまとめて註記した。

- (1) 訓点・濁点等が付されている箇所
- (2) 後刻本で本文が修正されている箇所
- (3) その他、特記すべき事項がある箇所

『願生歸命弁』翻刻

(序1表)

美玉也人得而寶焉卞和氏獲之三獻

自孽寧不悲泣哉魏之田父宋之愚人

一則置之廡下一則襲磔於篋乃曰姑

舍汝所學而從我則不怪且怒者殆鮮

焉已已而千載之下不可無辨是此書

之所由興也蓋敵國之爲價雖稱連城

未可肯出示焉況復以暗投之雖則有

(序1裏)

識亦按劍焉嗜難遇哉乎無上大寶王

誰能學以耀彼昏衢「吾」存子之續煥若

矣然而彼田父與愚人又何知之乎又

何識之乎

道粹謹序

(上1表)

願生歸命辨卷之上

問曰吾宗ニ相承スル如來ヲタノムトイフコト

近世種種異說スルモアリソノ中甚シキニ至

テハ全ク此ヲ廢捨セントス愚蒙ノ輩コレカタ

メニ岐路ニ躊躇スルコトスクナカラスネカハ

クハソノ正教ノ詳ナルヲ聞ント欲ス

答曰此タツネノ旨ハナハタ切要ナリ餘カ短才

ナル敢テ詳說スルニアタハストイヘトモ今試

ニ愚衲カカネテ領解セル趣ヲ以テ略シテ六門

(上1裏)

ニ約シテ分ニ子カ疑ヲ解スヘシソノ至ラサル

トコロハ更ニ吾門ノ尊宿ニ尋ヌヘシ其六門ト

ハ一^①先釋名義ニ正學相狀三通辨道理四明出文

證五因引例證六廣通妨難

第一先釋名義^②トハ凡ソ其義ヲ知ント欲セハ先

其名ヲ辨スヘシ今吾宗ニ傳ル彌陀ヲタノムト

イフコトハ本願ノ三信ヲ統括シテ近ク六字ノ名號ナルコトヲ示シ三信即一ノ欲生ノ一心開發ヲアラハシタマフスカタト見エタリ故ニ願願鈔ニノタマハク彼國ニ生ルル信心歡喜ノ念(上2表)

佛衆生一念欲生ノキサミ正定聚ニ住ストノタマフ又高祖ノノタマハク愚鈍ノ衆生解了ヤスカラシメンタメノ故ニ論主三ヲ合シテ一トシタマフカト今ハソノ一トナリタルスカタラスメタマフナリソノタスケタマヘト云ハ南無ノ二字ナリ御タスケ一定往生決定トハ阿彌陀佛ノ四字ナリ復コレ論ノ稱彼如來名如彼如來光明智相等トノタマフ他力ノ一心ナリ宗家ノ曰フ言南無者即是歸命亦是發願廻向之義等トソノ南無ノ言ヲ善見論等ニハ翻シテ度我トイ(上2裏)

ヘリ其南無歸命ヲ諺解シテタスケタマヘトタノムトハノタマヘリタノムトイヘハトテ頼憑恃怙等ノ字ヲ以テ解スヘカラスソノ頼字ハタノミニスルコトナリ憑ハヨリカカルナトノコ

コロナリ今ノタノムト云ハ願文ノ欲生我國成就ノ文ノ願生彼國ト説タマヘル如實ノ欲ト願トノヲモムキナリ善導大師ノ願佛常攝受トノタマヘルカ如シ然ニ今ハ最初歸命一念開發ノスカタナリ故ニ御文章ニ南無トイフハ願ナリト又南無トイフハ極樂へ往生セントネカヒテ(上3表)

彌陀ヲフカクタノミタテマツルココロナリトノタマフ其タスケタマヘトタノムスカタハ大集經日藏分ニ急ニ佛ノ救護ヲ請コトヲ南無南無スト説キ尸毘王ノ緣中ニハ歸命於王入王腋下ト説タマフ類ノ如シ又降參スルコトヲ歸命ト名ルコトハ内典ノ琉璃王經外史ノ晉書等ノ如シ又南無ニ名ノ義アリ俱舍論光師ノ記ニ言ク那摩ニ四義アリ隨ト歸ト赴ト名トノ義ニシテ招呼ノ義ナリ阿毘達磨論ニ義ヲ詮シ他ノ覺慧ヲ生セシムトイヘリ今モ名號ヨク彼佛ヲ詮(上3裏)

シコノ覺慧ヲ生セシメテ彼此投合セシムルモノナリ又コノ南無ハ名號ノ音聲ナル義ハ大悲

經ニミエタリ故ニ賢首師ハ歸ハ敬順ノ義命ハ
 諸佛ノ敎命ト釋セリ吾高祖ノ本願招喚ノ敎命
 トノタマフモノコレナリタトヘハ明眼ノ人ノ
 盲人ヲ導クハ聲ナラスシテハシラシムルコト
 アタハス世ノ盲冥ノ明覺ノ佛ニ隨順スルコト
 ハ招喚ノ敎命ニ由テ歸命願生ノ心ハオコルナ
 リ然レハ今一心ニ阿彌陀如來タスケタマヘト
 タノム一念ニ御タスケ一定ト疑ナキ他力ノ欲
 (上4表)

生ハモトコレ東岸西岸ノ遣喚ニヨルタノムコ
 コロモワレトオコラヌトハコレナリ然ルニ異
 解者流偏ニ頼ノ字ノ訓ニテタノミニスルコト
 ナリトテ三業ニ亘リタスケタマヘトタノムコ
 トヲ怨ノ如クキラヒニクメリコレ大二宗教ニ
 違背ス復タノミニスルト云コトモ須憑他力ナ
 トノ語意ニテナキコトニハアラネトモ今ノ歸
 命ヲ譯スルニハ不對ナルコトナリ又已ニ乘ノ
 義託ノ義ヲ説ニ至テハタノミニスルトイフモ
 猶遠シ全體攝取セラレタル行者ナリ今タノム
 (上4裏)

トイフハモトソノタノモシキヲ見カケテ歸命
 シ歸命ノ一念ニタスケタマフト信スルヲタノ
 ムトハ敎ヘタマフナリコレヲ願入彌陀界歸依
 合掌禮ト云又以光明名號攝化十方但使信心求
 念トモノタマフソノ求念ハ即タスケタマヘナリ
 又コノ求念ハ即光明名號ヨリコレヲナサシム
 ルナリ問シカラハ何ソネカヘトノタマハサル
 ヤ答ネカフト云言ハ或ハ對スル主シナクシテ
 タタ自心ニ汎クソノミスツルコトヲモネカフ
 トイフ今ハ親ク阿彌陀佛ヲ所對所向トシテ願
 (上5表)

スルコトヲ示ントテタノムトハノタマヘルナ
 ルヘシ又ネカフトイフ語ハ依正ニ通ス今ハ大
 悲ノ主人ニスカリマイラスルコトユヘタノメ
 トヲシヘタマフナルヘシコレ欲生ニシテ即信
 樂ナルモノナリ本願成就ノ佛ヲ所歸トスレハ
 自力ノ發願回向ヲタノミトスル疑惑心中ノ欲
 生心ニハ同シカラス今南無ヲ諺譯シテタノム
 トヲシヘタマヘルソノ語ハ通總ニワタルニ似
 タレトモタスケタマフ本願ヲキキノ佛ニ南

無シテ疑ナケレハコレ他力不共ノ一念歸命ナ

(上5裏)

リ應知⁽⁴⁾

第二正學相狀トハ源ト論偈⁽⁶⁾初行ノ三念門ノス

カタ他力安心ノ標相ナリ發起時至リタスケタ

マフ佛願ヲ聞得テ如來ニ向ヒ合掌禮敬シテ一

心ニ阿彌陀如來タスケタマヘトタノミタテマ

ツリ御タスケ一定往生治定ト疑ナク信シタテ

マツルナリ莊嚴經曰若有善男子善女人得聞無

量壽佛名號發一念信心歸依瞻禮當知此人非是

小乘於我法中得名第一弟子也ト五帖ノ御消息

ニ阿彌陀如來ニ向ヒタテマツリ後生タスケタ

(上6表)

マヘトタノミ申ト又カカル機マテモタスケタ

マヘルホトケハ阿彌陀如來ハカリナリトシリ

テ何ノヤウモナクヒトスシニコノ阿彌陀如來

ノ御袖ニヒシトスカリマイラスルオモヒラナ

シテ後生ヲタスケタマヘトタノミ申セハコノ

阿彌陀如來ハフカクヨロコヒマシマシテ等ト

然ハ善知識ノ教ニマカセ身業佛ニ向ヒ合掌敬

禮シテ口業ニ阿彌陀如來ワカ一大事ノ後生タ

スケタマヘト白シ心ニ念スルコト口業ノ如ク

カカル出離ノ縁ナキモノヲタスケタマヘト一

(上6裏)

心ニ歸命スルトキ御タスケ一定ト信シテ疑ナ

キヲコソ今ノ歸命ノスカタトハイフヘシ然ト

モサマサマノ縁ニヘタテラルルコトアリテ身

業禮敬ノカナハヌ人モアルヘシ口業ノ發語ニ

及ハレヌモアルヘシ獨リ自ラタノム人モアル

ヘシ師僧父母同行ノ授ニヨルモアルヘシ或ハ

佛闍道場或ハ病床山野ニテタノムモアルヘシ

ソノ時處諸縁ニカカハルコトハナキナリサレ

トモ何ノ障縁モナカランモノハ必佛前ニム

カヒ三業ヲ表スヘキコトナリソノモトライヘ

(上7表)

ハ本願ノイハレラキキエテ雜行雜善ヲステ機

ノ善惡強弱ニココロヲトメスタタ一心ニ阿

彌陀如來後生タスケタマヘトタノムソノ一念

ノトキ佛ノ御タスケ一定ト信スルヲ本トスル

ナリコノ時輪轉ノ妄業永ク絶シ攝取ノ心光ニ

攝護セラルレハコレヲ正定聚ニ住スト名ク此人必ス往生シテ速ニ大滅度ヲ證ス因果コトコトク佛回向ノ所作ナレハ歸命ノ三業モ佛ノ三業ヨリオコリ本願ノ招喚ヨク行者ヲシテ安養佛ニ廻願セシムコレ光明名號ノ力用ニシテ信(上7裏)

行融即ノ相ナリソノ體他力離思ノ三念門ナレハ三業モト一體ノ中ニシテ具セリ何ソ縁ニ沮ラレテ闕トコロアルヲ傷ンヤ然レトモ凡夫隔歴ノ地ニアリテ其身ニ於テ猥リニ三業融即ヲ言テ身口ヲ輕スルモノハ多ハアヤマレリ爰ニ近來一類ノ異解者アリテ願生歸命ノ三業ヲキラヒ偏ニアアトオモフ開解ヲ教トセリコレ却テ自己ノ度量ニ墮スルコトヲシラス經ニ所謂タネヲマクモノノ自ノ足跡ヲキラヒ身ヲ四人ニ昇セテソノ跡ノ増セルヲ知サリシカ如シ今(上8表)

異解者ノアアト信スルハカリト云ハ決定恆時ノ信相ニシテ一念發起ノ歸命願生ニハアラスカレカ如キハ欲生ヲ捨テ直ニ信樂ヲ勸メント

ナリコレ水ニアラサル氷ヲ用ルカ如シ譜ヲ願願鈔等ノ文ヲ熟讀セヨ抑又通シテ論スルニ南無歸命ノ言三業ニワタルコト近ク論註ニ云云シタマフ又涅槃ノ疏曰南無者有三義口稱是口業屈膝即身業歸命是意業又報恩經第六說三歸三業爲性「教順關師歸命篇ニ云云セリ」コノユヘニ救護禮敬等ノ義ヲ成ス今ハ別シテ行者如實ノ南無ニシテ(上8裏)

(上8裏)

他力廻施ノ三業ヨリ起ル何ソミタリニ自力ノ計度トイハンヤ又大乘方廣總持經ニハ滅後ニ法師アリテ人ノ爲ニ說法シ一毛歡喜ノ心ヲ生セシムル皆是佛ノ神力ナリト説タマヘリ通總ノ説スラカクノ如シ況ヤ別願不思議ノカラヤ更ニ三業ヲ用ル例證ハ下ニ至テシルヘシ

第三通辨道理トハ凡ソ歸佛ノ法ハ三業歸敬ヲ用ルモノ是通方ノ理ナリタトヘハ日ハ陽燧ヲ俟テ火ヲ發シ月ハ方諸ニ遇テ水ヲ施カ如シ故ニ經ニ説カク法ハツネニ無性ナレトモ佛種ハ(上9表)

緣ヨリ起ルト蓋シ惟ハ一切ノ佛法ソノ發軔ヲ

論スルニ事アリ理アリ解アリ行アリ天台華嚴ノ如キ先ソノ理解ヲ貴ム眞言淨土ノ如キマツソノ事行ヲ首トス今此眞宗ハ凡愚ヲ導クヲ先トスル他力易行ノ捷徑ナレハサシヨセテ近ク教テソノ眞ニカナハシムルヲ要トスソノ近キモノ即蘊奧ナリ然ニ近來ノ異解者私ニ次第漸入ノ見ヲ立テ淺ヲ廢シ別ニ深ヲ尋ネ第十八願ノ信行ノ中ニ尙廢立ヲ用ヒ歸命ノ一念等ニ至ルマテ初ヲ以テ方便トシコトムツカシク開解(上9裏)

ヲ構畫シタノム一念ニ御タスケ一定ト信シヨロコフモノヲ貶責ス上ハ願生歸命ノ誠說ニソムキ下ハ愚夫庸婦ノ發軔ヲ失フ是宗ノ相承ニモトリテ己カ胸臆ヲ師トスルモノナリマツソノ願生ノ心ヲ貶スルハ論スルニ及ハス設ヒ佛邊ヨリハ行者身口ノ表業ヲマタストモ行者ノ三業恭敬ヲ致スヘキコトコレ必然ノ理ナリ況ヤ行ノ一念ニ即得往生ヲ示シタマフコトアルヲヤ云云

又ソノ三業ヲ用ルノ理ハ例セハカノ勝鬘夫人

功存「願生歸命弁」の本文研究(一)

(上10表)

ノ佛ヲ禮シテ愛愍シテ我ヲ覆護シ今世後世願ハ攝受シタマヘト請セラレシニ佛言ク我久ク汝ヲ安立シ前世ステニ開覺シ今復汝ヲ攝受シ未來ノ生モ亦然ラント答ヘタマフカ如シコレ佛ノ慈ト夫人ノ敬トナリ喩ハ父ハ慈ヲ以テ恕シ子ハ孝ヲ以テ事フカ如シ佛願モト衆生ノ爲ニ成シタリトテ何ソ今ノ歸敬ヲ捨ヘケンヤ然ヲ異解者タタ慈ト恕トノミヲ語テ孝ト忠トヲ貶スコレ禮法ヲ知サルノ人ナリ今更ニ小子等カ爲ニ機法和合ノ義ヲ示サン大論六十一曰諸(上10裏)

佛菩薩功德力能度一切衆生但以衆生無和合因緣故譬如大火常有燒力但以薪不近故不得燒近則能燒ト例スルニ一切ノ法門法トシテ如是今モ此譬ニ准知スルニ先ツ薪火和合シ火燒ヲ發スルソノ漸頓アリ難易アリ自力アリ他力アリ餘ハ且クサシラクソノ中他力易行頓速ノ法ヲ論スルニ彌陀正覺所證ノ法體「於一切法而得自在」ニ約スレハ小薪ノ「能歸ノ行者」大火「光明遍照十方世界等」ニ攝合セラ

レテ薪ノ方ノ小分ノ功用ヲモ待サル如クモト
行者カ分別ニアラス「信行トモニ佛ノ回向成就スル故ニ」トイヘ
(上11表)

トモ今日聞其名號等ノ義ニ約シテ行者趣入ノ
相ヲ論スレハ能歸所歸ノ別アリ信機信法ノ相
アリ其機ノ生質ハ十方衆生コレ薪ノ如クソノ
法ハ阿彌陀佛コレ火ノ如ク南無ハ彼此投合セ

シムコレ發燭「本國コレヲツケキトイフ京都ノ邊ニ硫黃木トイフ」ノ
*如シ

コレ薪ヲ燒ノ妙術ニシテ易ク頓ナルモノナリ
其中薪ノ濕乾少異アリテ燒相或ハ緩急ナルニ
似タレトモ一タヒ發シテ離サルハミナ是發燭
ノ功ナリソノ火ノ離レサル相續決定ハ阿彌陀
佛攝取不捨ノ德ニタトフ「世間ノ火ハキユルコトアレトモ佛光ハ不
(上11裏)

然分喩ノミ」薪ノ全體ニ硫黃ヲコトコトク用ヒサレト
モ「念念ニタスケタマヘノ常タノミニアラス」硫黃ノ用ハ始終ヘワタ
ル又其發燭ト名ルモノモ火ヲ發スルハ硫黃ノ
功ナレトモ硫黃ハカリニテハソノ便リヨカラ
サルユヘ薄木片頭ニ鎔染シテ發燭ト名ク今且

ク喩フルニ硫黃ハ意業ノ如ク木片ハ身口業ノ
如シ木片イマタモエオハラサルニ火已ニ發ス
ルハタスケタマヘトオモフココロノ一念オコ
ル刻ミハヤ攝シタマフトノタマフニ喩フヘシ
「今ソノ意業ハ他力ノ三業具足ノ意業淺近ノ譬盡スヘキニ非ス」又硫
*黃名クル⁽¹⁶⁾

(上12表)

モ別物外ヨリ來テ火ヲ發スルニ似タレトモソ
ノモトヲ尋レハ陽氣入地遇陰而成「正字通」モノナ
リ陽氣陰ニ入テ和セサルユヘ凝テ硫黃トナレ
ハコレ本火性ナリ喩ルニ今ノ南無モ亦爾リ佛
正覺成就ノ光明大悲等アレトモ吾等今日ニ至
マテ未和シテ生死無明ノ陰ト迷フユヘニ其佛⁽¹⁷⁾
力凝アツマリテコノ南無アリコレヲ佛ノ救命
トイフ然ルニソノ硫黃ヲ掘出シ木片ニ染スル
等ノ緣和合シテ火ヲ發スル如ク今モ宿善善知
識等ノ因緣トキ至リ南無ノ發燭阿彌陀佛ノ火

(上12裏)

ニ投合スレハ彼佛ノ光明功德ト一味ニシテ攝
取シテ捨サレハ陰物忽ニ陽光ニ和ス其火モ硫

黄モ薪ノ燃ル性モ乾ケル功モトハ法體周遍
ノ大火力ナルカ故ニ今コレヲ他力ノ廻向ト云
ソノ談ニ至テハ能所モト一ニシテ自ノ功ニア
ラス南無モ阿彌陀佛モトモニ大火ニシテ光明
ノ大火ト一體ナリ薪ノ乾テ燃ヘキヤウニナル
モモト陽火力ナルカ如ク時至テ名號ヲキキ信
ヲ發スルコレヲ光明名號攝化十方ノ力ニテ求
念セシムトハノタマヘリ薪已ニ燒盡シヌレハ

(上13表)

能所ノ分ツヘキナキカ如ク今モ臨終一念ノタ
大涅槃ヲ證シヌレハ光明名號一體機法不二佛
ノ正覺衆生ノ往生融即無礙前後際斷ナルヘシ
上來聞其名號ノ邊ニツキテ且ク分喻ヲ以テソ
ノ一端ヲ示ス請フ言ヲ以テ其意ヲ害セサレ然
ニ近來ノ異解ノ如キハタタ法體ノミヲ語ルカ
ノ薪ノ大火ニ周布セラルル一邊ニシテ却テ機
法趣入ノ法方ヲソシレリコレ宗教ヲ害スルノ
甚キナリ抑上來ノ義ヲ概論スルニ機ノ趣入ヲ
ススムルヲ見テ偏局ノ教トオモフモノモアラ
(上13裏)

功存「願生歸命弁」の本文研究(一)

ン歟ナレトモ已ニソノ歸命決定ノ安心ハ不可
思議ノ願海ニ投入シテアアリカタヤトヨロ
コフハカリナリ異解者流ノアアト信スルハカ
リトイフト別ハナキヤウナレトモ今辨スルト
コロハカレカ一念發起ノタノミ奉ルヲ捨テ人
ヲシテ趣入ノ發軔ヲ失ハシメミタリニ宗教ヲ革
ルコトヲ惡ムナリ「又異解者己ヲ忘ルルトハ至心信樂ヲ忘ルルコトト

*スルハ

大ニ非ナリ」又諸處ニ聞ウル信スルナトノタマフヲ

タノムト別ノヤウニミル人アレトモコレミナ
彌陀ヲタノミ往生治定ト領解スルコトナリソ
(上14表)

ノユヘハ本願名號ヲ聞得テ往生疑ナキコトナ
レハ今一心ニ御タスケ候ヘトタノムハ南無ヲ
キキエタルナリタノム一念ニ御タスケ一定ト
疑ナキハ阿彌陀佛ヲキキ得タル故ナリ然ルニ
タノミナカラ疑フ人ハ阿彌陀佛ヲシラサレハ
通總ノ南無ニ類スアアト領スルハカリト談ス
ルハ阿彌陀佛ヲ聞ニ似タレトモイマタ南無ノ
義ヲ聞信セサルユヘ十劫祕事ニ同ス又ソノア

一二五

アト云モ如實ノアアニハアラストシルヘシタ
タ深ク本願成就ノ金言ヲ奉持シ宗祖知識ノ正
(上14裏)

教ニ順シテ聞信不具ノ異徑ニ墮スルコトナカ
ルヘシ蓋惟ハ異解者流ハ一心ニタスケタマヘ
トタノミ御タスケ一定ト安心スルモノヲ怨ノ
如クキラヒニクメトモ彼モマタ往生ヲ所期ト
スレハヨモヤ佛タスケタマヘトオモヒシココ
ロノ絶テ一念モナキニハアラサルヘシモシ一
念モナシトイハハ外道天魔ノ一類タルヘシ彼
マタソノ願ナキニアラサルヘキコトヲオモヘ
ハアナカチセムルニ及ハヌコトノヤウナレト
モ近來漸漸ニ相承ノ大道ヲ侵損シ今時ノ御門
(上15表)

葉ヲシテ首途ヲ失セシメ却テ正教ヲ謗リ祖門
ノ和合僧ヲ破スル邊ヲオモヘハキリキサミテ
モアカヌトノタマヘル類ノ破法人ナリ然シイ
カホト異説スルモノアリトモ宗教ノ明著ニシ
テ覆フヘカラサルコトハ近ク五帖ノ御消息ニ
ミエタリコレニヨリテ蓮宗主明應八年二月十

八日實宗主ニ願命シタマフ安心ノ一道ハ文ニ
シルシラク申シミタスモノモアルマシコレヲ
以テ相承ノカカミトセヨトソレヨリコノカタ
御文ノ奥ニ花押ヲソヘタマフト傳ヘタマヘリ
(上15裏)

又同キ御詠ニ ナキアトニワレヲワスレヌ人
モアラハタタ彌陀タノムココロオコセヨ
第四明⁽¹⁹⁾出文證トハ先近ク吾大法門王ノタマハ
ク安心ノコト後生タスケタマヘトタノミ申ス
外ニハ別ノ子細コレナク候コノウヘニハ晝夜
朝暮佛恩報謝ノ稱名申サルヘキハカリニ候又
實宗主ノタマハク前住上人ヨリ相承スル法門
彌陀ヲタノムトイフヨリ外別ノ事ナシイカナ
ル御誓言モアルヘシト仰ラレ候ト又五帖ノ御
消息ニ彌陀如來後生タスケタマヘトタノメタ
(上16表)

ノム一念ニ御タスケ一定ソト示シタマフコト
諄諄然トシテ懇懇ナリ其外御一代聞書等枚舉ニ
違アラス覺宗主ノタマハク我國ニ生レントオ
モフココロサシヲ一念オコシテ南無阿彌陀佛

トタノミタテマツラハ必ス阿彌陀如來ノ御光
ニテソノ志ヲヲサメトリテ永クステシトチカ
ヒタマヘリ吾ソノ本願ヲタノムカユヘニステ
ニ三塗ノ苦ヲウシロニナシテ淨土ニ生ルヘキ
身ニ定リ又然トモソノ恩徳ヲムクハンカタメニ
命ヲカキリテ時處ヲキラハスヨルヒルライハ

(上16裏)

ス念佛スト「文保三年五十歳ノ御筆」又云ク凡夫不成ノ迷情

ニ令諸衆生ノ佛智滿入シテ不成ノ迷心ヲ他力

ヨリ成就シテ願入彌陀界ノ往生ノ正業成スル

トキヲ能發一念喜愛心トモ不斷煩惱得涅槃ト

モ入正定之數トモ住不退轉トモ聖人釋シタマ

ヘリ執持鈔ニ云ク平生ノ時善知識ノコトハノ

シタニ歸命ノ一念ヲ發得セハ娑婆ノヲハリ臨

終トオモフヘシソモソモ南無ハ歸命歸命ハ往生

ノタメナレハマタコレ發願ナリトノタマヘリ

高祖ノタマハク南無阿彌陀佛トタノマセテム

(上17表)

カヘントハカラハセタマフト又銘文ニノタマ

ハク亦是發願廻向之義トハニ尊ノメシニシタ

功存「願生攝命弁」の本文研究(二)

カフテ安樂淨土ニ生ントネカフココロナリ等

ト「云云」黒谷ノ吾祖ニ親授シタマフ文ニ曰ク淨

土宗ニ立ル處ノ機ハ十方衆生心ハタスケタマ

ヘトオモフハカリ行ハ一念十念ニテモ決定往

生スルナリ彼佛願ニ順スルカ故ニト相承スル

ヨリ外ハ別ノ法行モ示モナシト宗家曰共發金

剛志横超斷四流願入彌陀界歸依合掌禮等又曰

言南無者即是歸命亦是發願廻向之義言阿彌陀

(上17裏)

佛者即是其行以斯義故必得往生又三心釋「云云」

又曰三明彌陀在空而立者但使廻心正念願生我

國立即得生又曰衆生貪瞋煩惱中能生清淨願往

生心「云云」綽大師云大經曰欲往生淨土要須發善

提心爲源云何菩提乃是無上佛道之名也若欲發

心作佛者此心廣大周遍法界此心長遠盡未來際

此心普備離二乘障若能一發心傾無始生死有輪

玄簡大士曰以信佛因緣願生彼國佛力住持等又

曰諸聞阿彌陀德號信心歡喜慶所聞乃暨一念至

心者回向願生皆得往「云云」論主曰世尊我一心歸

(上18表)

命盡十方無礙光如來願生安樂國「云云」龍尊曰若人願作佛心念阿彌陀應時爲現身是故我歸命「云

云」阿彌陀經曰應當發願願生彼國又曰已發願今

發願當發願欲生阿彌陀佛國者是諸人等皆得不

退轉於阿耨多羅三藐三菩提於彼國土若已生若

今生若當生「云云」觀經曰若有衆生願生彼國者發

三種心即便往生何等爲三一者至誠心二者深心

三者廻向發願心具三心者必生彼國「文」大經曰其

有至心願生安樂國者可得智慧明達功德殊勝又

曰其佛本願力聞名欲往生等第十八願成就云云

(上18裏)

聞其名號信心歡喜乃至一念至心廻向願生彼國

即得往生住不退轉本願文曰至心信樂欲生我國

乃至十念若不生者不取正覺上來タタオモヒ

出ルニマカセテソノ要文ヲ略抄ス繁文ヲキラ

フモノモアランカナレトモ近來願生歸命ノ發

信ヲ廢シテタタアアトオモヘナト臆説ヲ骨張

シテ佛祖ノ正教ヲ侵奪スルコトヲ悲ミ丁寧ニ

コレヲ出スノミ上來ノ諸文皆是歸命願生スレ

ハ必ス往生スルノ證ナリソノ論釋ノ源ハ願文

及ヒ成就ノ文ヨリ出テ他力廻向ノ願生歸命ノ

(上19表)

信ヲ以テ報土得生ノ正因ト定メタマフコレタ

ノミ奉ル一念ニ佛ノタスケタマフト疑ナク信

スル心コノ欲生ハ即コレ信樂ナレハ自力疑心

ノ欲生心ニハ同シカラス然ルニ異解者ハタノ

ミ奉ル一念御タスケ一定ト信スルヲ自力ノ心

ト名ケ嗚呼カマシク他力ノ皮ナリ又別ニ肉ア

リ骨アリナト侮ルシカノミナラスタノムヲ見

テハ四十八願成就ノ彌陀ハカホヲアカメテミ

ソナハシタマフコトモアルヘカラス等ト嘲弄

スアア何故ソカカル不忍ノ言ヲ出セルヤコレ

(上19裏)

ミナ善知識ノコノ阿彌陀如來ハフカクヨロコ

ヒマシマシテ等トノタマヒ又タスケマシマセト

オモフココロノ一念ノ信マコトナレハナト⁽²¹⁾

タマフヲ潜ニ刺ルト見タリ彼ハ種種ニ云マハ

シテタノム稱ル⁽²²⁾ナト云名目マテヲ嫌フ本心ナ

ルヘシヨクオモヘ此歸命ハ阿彌陀佛ニ對スル

歸命ニシテ佛ノ救命ヨリオコレリ故ニ高祖欲

生心ヲ釋シテ本願招喚ノ救命トノタマフタト
ヘハサキヘユク人ヲアトヨリヨフニ前ノ人首
ヲ回シテ答ルヲ呼ト名ルモ應フルト名ルモン
(上20表)

ノ體ハ一ナルカコトシ 古語ニイハク金地
遙招手江陵暗點頭ストイマノ行者招喚ノ形ヲ
現見セサレトモ如實ノ欲生心ノヲコルハコレ
佛ノ招喚力ナリソノタスケタマフ佛ヲ見カケ
テ歸命スナンソ其法則ヲキラハンヤタトヘハ
ココニ一人ノ狂兒アランニソノ父ハタノマス
ハタスケシトハイハストモ狂氣モ本性ニナリ
オヤヲオヤトシリナハタノム身口意ハアラハ
ルヘキナリ今モ亦爾リ自力ノ狂心ヤミテソノ
モトヨリノ大悲ノ父母ナレハタスケタマフト
(上20裏)

云コトヲキキウルヲ聞名トモ本願ノ生起本末
ヲキクトモノタマフ聞ユヘニ如實ノ願生歸命
ハオコルナリ本願ノ父母ナレハコソタノメト
ハススムレタレカ餘佛ヲタノメトススムルヤ
然レハ宿善聞教トキ至リ歸命ノ一念發起スル

トキ不可思議ノ願力マチエテ攝取シタマフト
信セヨトススムルハ自己ノ三業ニトリツケヨ
トニハアラス不可思議ノ願力ニマカセ奉ルヤ
ウヲラシヘタマヘルモノナリ 又高祖ノ意コ
ノ歸命ノ言ニ直二三信ヲ具スル深旨ハ行卷二
(上21表)

見え又信ノ卷ニハ欲生ハ信樂ヲ體トシ信樂ハ
至心ヲ體トシ至心ハ至徳ノ尊號ヲ體トストノ
タマフ然レハ欲生歸命ノ一心ニ御タスケアリ
カタヤト信スル外ニ信樂至心ノ相ヲ心中ニモ
トムヘカラス願願鈔ニ云ク至心信樂ノオモヒ
今ノ時ノ造惡不善ノ凡機トシテサラニコレア
ルヘカラスシカルニタマタマ欲往生ノ深信發得
スルハシカシナカラ法藏因中ノ強願ト正覺ノ
彌陀智力ト内熏密益スルニヨリテ一念歸命ノ
往益ヲ成スシカレハ至心信樂トハ凡夫自力ノ
(上21裏)

心ニアラスシカシナカラ佛心ナリシモノ乃至
一念モ願力ヨリ成ストシルヘシ等トノタマヘ
リシカレハ佛因中ノ至心果上至徳ノ名號ヲ成

修行者ソノ至徳ノ尊號ヲ聞信スルトキ心中ニ
 徹至シテ疑ハス御タスケ候ヘトタノミ奉ルコ
 ノ一念全ク如來ノ至心ヨリアラハルルユヘ如
 來願海ノ至心ノ底ニ徹到スルコレヲ眞心徹到
 トモ金剛ノ信心トモ利他深廣ノ心トモ眞如一
 實ノ信海トモ佛心凡心一體ニナル等トモ名ケタ
 マヘリタトヘハ瓢ヲ大石ニ付シテ水ニ投スレ
 (上22表)

ハヨク水底ヲ極ルカ如シ沈ハ石ノ沈ムナリ瓢
 ハイツモウカムヘキ輕物ナレトモ石ト離レサ
 ル故ニ深重ノ用ヲナスコレヲ行者カ深心ト云

フ「佛願トハナレハナレナル自力⁽²⁵⁾深心ニハ同シカラス」是佛ノ深法ノ

*徳ナリ

故ニ觀經ニ深心ト説キ大經ニハ聞深法ト説タ
 マヘリソノ深法ヲ聞テ疑ナキコレ深心ナリタ
 トヘハ水ハ淺クマタ濁レトモ月ニ向ヘハ四萬
 由緒那ノ深ク淨キ影ヲ成カ如シ影ノ深ハ月ノ
 高キナリ水ノ自體ノ淺深清濁等ニハヨラス然
 レトモソノ深ク淨キ相ハ水ニ於テアラハル又
 (上22裏)

名號ノ至心信樂ナル相ハ行者カ佛ニ歸シテ疑
 ナキニアラハルルナリ故ニ或時ハ法體圓具ノ
 徳ヲ示シ或時ハ機邊領受ノ相ヲ明シタマフコ
 トハシハラク異ナルニ似タレトモソノ體ハ一
 ナリ古歌ニ池水ニコヨヒノ月ヲウツシモテコ
 コロノママニワカモノトミルト詠セシカ⁽²⁶⁾如シ
 凡ソ祖師ノ諸文ニ三心ヲマキテツキニ至徳ノ
 尊號ニヲサメ「上ニ引信卷」或ハ三信ヲスヘテ疑蓋不
 雜ノ一信樂トアカシ「信卷等」或ハ至心ノ一種ヲ全
 ク佛邊ニ屬シ信樂ノ一種ヲ生佛ニ邊ニワタシ
 (上23表)

欲生ノ一種ヲシハラク衆生ニ屬シテ示シタマ
 フ「銘文等」或ハ三信ヲ歸命ノ一心ニ攝シタマフ等
 ナリ蓮師ハ相ノ顯著ナルヲトリテ愚鈍^{下機}ニ
 チカク示シタマフユヘニ欲生歸命ノ一心ニタ
 タミイレテヲシヘタマヘリモトヨリ三心即一
 ノ歸命盡十方無礙光如來ナレハ一毫ノ差モア
 ルヘカラス古歌ニ水ヤソラソラヤ水トモミエ
 ワカスカヨヒテスメル秋ノ夜ノ月ト詠セルナ
 トニテモナソラヘシルヘシマコトニ法ニ即ス

ルユヘニ功高ク機ニ即スルユヘニ進ミヤスシ
(上23裏)

又カケト形トモト一ナレトモソノ相ニハ左右
アリタトヘハ文字ヲ水ニウツスノカケハ左リ
文字ト見ユ書ヲ版ニ鈹ルニハ字ヲ翻シハリテ
左リ文字ト鈹メ成シソレヲ紙上ニ印スレハマ
タ右文字トアラハルソノ板上ニ隠起スルハ紙
上ニ印スルヲ本意トスルナリソノ板上ヲ直ニ
讀マシメントニハアラス今モ佛ニ在テハ南無
セシムル阿彌陀佛コレヲ救命ト云衆生ヨリハ
阿彌陀佛ニ南無スコレヲ阿彌陀佛タスケタマ
ヘト云歸セヨト命スルト命ニ歸スルトノ左右
(上24表)

ナリ鸞師ノ他利ト利他ト談スルニ左右アリト
ハコレソノ例ナリ故ニ婆沙論ニハ歸依ヲ救護
ノ義ト云法華經ニハ佛ヲ救護トノタマフ月燈
三昧經ニハ吾願王ヲ指テ彌陀救護ト説タマヘ
リ佛モト廻向ヲ首トシテ大願行ヲ成シタマフ
故ニ能ク衆生ノ爲ニ所歸依トナリマタ能歸依
ノ心ヲ生セシムソノ能歸衆生ノ紙ニハ麤細ア

リトモ南無阿彌陀佛ノ大印ニハ差別アルヘカ
ラス故ニ願行一時ニ成就シテ現ニ大會衆ノ數
ニ入ル佛因位漸次ニ五念門ノ行ヲ成就シタマ

(上24裏)

フコトハ今一心歸命ノ行者カウヘニ頓現セシ
メンカ爲ナリ然ルニ近來ノ異解ノ如キハソノ
板上ノ字ノミヲ執シテ紙上ニ現スルモノヲ偏
ニ自力ト名ケキラフコレ大ニソノ本意ヲ失セ
リ機モト自ラ起ラス必ス法徳ヨリス法ヒトリ
アラハレス必ス機ヲ待ツ故ニ蓮師ハツネニ佛
力ニヨリテ歸命シ歸命スルトコロ必ス阿彌陀
佛ニ攝入セラルル旨ヲ示シタマヘリ故ニソノ
御持言ニ云ク信心安心トイヘハ愚鈍ナルモノ
ハマタモシラヌナリ凡夫ノ佛ニナルコトトヲ
(上25表)

シヘヨタタ後生タスケタマヘトタノメトスス
ムヘシ當流ニハコレヨリ外ノ法門ハナキナリ
トノタマフコレソマコトニ愚鈍ノ衆生解了ヤ
スカラシメントメノ故ニ三ヲ合シテ一トシタ
マフモノナリ然ニコノ御ススメラ愚蒙ナル尼

入道等ノ爲トヲシノケテ我身ハ一キハ智アル
 モノトオモヒ別ニ安心ヲ與フカクトリナスモ
 ノハ淨土門ノ機ニアラス沈思シテ改ルニ憚ル
 コトナカレ正シク宗教ヲ奉持セント欲スルモ
 ノハ謹テ善知識ノ教法ヲ守ルヘシ修多羅八月

(上25裏)

ヲサス指ノ如シ其指ニ心ヲトムヘカラスト
 テ別ニ指サシカフルコトハ革命ノ聖者ナトノコト

ナリ今善惡ノ字シリカホニソノ身ノホトラワ
 スレテ猥リニ指サシカフルモノハ大匠ニ代リ
 テ斷リ其手ヲ傷ルトイフタクヒナリタタ正ク
 相承ヲ守ヲ以テ要トスヘシソノ指ヲカラスシ
 テ月ヲミルホトノコトハ下機ノナリカタキコ
 トナルヘシ然ニ今世遮情ノ爲ナリトテ相承ノ
 教指ヲサシノケ横ニ私ノ指ヲ出シ違宗ノクセ
 法門ニ墮スルコトヲシラサルモノ多シタタ善

(上26表)

知識ノ教指ニマカスレハフカキイハレハミナ
 ソノ中ニアレトモ己カ情ノ偏ニ傍リ居ルユヘ
 却テ善知識ノ教指ヲトトカヌヤウニオモフナ

ルヘシヨクヨク己カ分ヲハカリテ宗教ヲ奉持ス
 ヘシ然ニ近來ノ異執ハヒカサマニ深ヲ好テ却
 テ不思議ヲ信スル階梯ヲ失セシム意哉固哉噫
 第五因引例證トハ大經曰於是阿難起整衣服正
 身西面恭敬合掌五體投地禮無量壽佛白言世尊
 願見彼佛安樂國土及諸菩薩聲聞大衆說是語已
 即時無量壽佛放大光明等トコノ一段ノ經文ハ

(上26裏)

一經所說ノ相ヲ現見セシメテ在世滅後ノ疑ヲ
 除カシメタマフ其中願見ニ寄テ願生ヲ顯ス凡
 ソ三業佛ニ向ヒ願生歸命スレハ如來即時ニ大
 光ヲ放テ攝取シタマフステニコノ光ニ攝取セ
 ラルル行者ニシテ方ニ三惡六道等ノ因永滅シ
 復果ノ受ヘキナキノ益ヲ信知ス此時ニ當テ常
 光即チ放光色光即チ心光ナリ故ニ常光ヲ指テ
 放大光明ト說タマフ又ソノ中三塗ノ黑闇ヒラ
 クノ相閉塞諸惡道通達善趣門ノ相等コトコトク
 文ニ在テ見ヘシコレミナ歸命ノ德ナリ故ニ三
 (上27表)

塗ノ黑闇ヒラクナリ大應供ヲ歸命セヨ等トス

スメタマフ又復大阿彌陀經等ノ異譯ノ經ニ阿
難ソノトキ南無阿彌陀佛ト稱シテ禮ス大衆モ
亦爾リト説タマヘリコレ一念歸命スレハ即時
ニ攝取ノ益ニアツカリ往生決定スルスカタナ
リ蓋シ佛將來ノ迷徒ヲアハレミ³⁰如是現事ヲ示
シタマフ三業相應ノ歸命ノ信心アニ往生ヲ疑
ンヤ別シテ此經ハ佛在世滅後同一ノ利益ニシ
テ二尊ノ遣喚ナリ仰テ深ク信受スヘシ但シ現
見セシノミソ佛在世ニ生シタル別德ニテハア
(上27裏)

レ然シ阿難及ヒ一會ノ大衆ニ現見セシメタマ
ヘルハ是普ク未來ノ我等ニ見セシメタマヘル
ナリ例セハ小經ノ中ノ舍利弗ニ告ルハ普ク苦
ノ衆生ニ告ルナリト釋シタマフカ如シ又觀經
別所求ノ文ニ我今樂生極樂世界ト説タマフハ
土ニ對スルタスケタマヘナリ又次ニ第七觀ノ
見無量壽佛已接足作禮ト云文中ニ願生歸命ヲ
含メルコト上ニ引疏文ニテ知ヘシ夫人ソノ時
即三忍ヲ得ラレタリ彼ハ眞佛今ハ尊像等一往
差別アルニ似タレトモ爲未來世ノ經ナレハ

(上28表)

與韋提等獲三忍スコシモカハリアルヘカラス
五百侍女願生彼國ノ一念ニ佛親ク記シテ皆當
往生トノタマフモ皆ソノ例ナリソノ所向ノ佛
ニツキ大經ハ直ニ彼土ノ不動尊ヲミル觀經ハ
影臨ノ住立尊ヲミルコレ且ク二經法門ノ位ナ
ルノミ實ニハ來即不來即來ナリ又カノ九
品ノ中ニ下上品ハ合掌叉手稱南無阿彌陀佛ト
説キ下中品ハタタ心念ノ往生ヲユルシ下下品
ハタタ口稱往生ヲ説ク且ク三業隨一二似タレ
トモ其中ミナ願生歸命有テ存スコレ散善ニ墮
(上28裏)

スルノ邊ハ未タ弘願ヲ顯說セサルニ似タレト
モソノ實意ハ願生歸命ノ念佛往生ナリ況ヤ今
弘願ノ一心歸命ハ佛願他力ノ三業行者カ三業
ニ寄托スルヲヤ然ルニ近來ノ異解者行者所起
ノ三業ヲ偏ニ自力ト廢シテ佛說ニ超過セル妄
見ヲオコセリ怪哉

因ニ他ノ例ヲ出シテ三業ノ德ヲ助明セハカ
ノ別解脱受戒ノトキ衆縁和合シテ白四羯磨

竟ノ言下ニ無作ノ戒體ヲ獲得シテ盡形壽等
念念倍増「云云」準知スルニ何ソ猥リニ心口ヲ

(上29表)

貶センヤ又彼眞言藏ノ如キ加持土砂等ノ徳
スラ死尸ノ邊ニ於テ生淨土ノ益ヲ得セシム
ル等ト説ク今ノ願力ト同日ノ談ニアラサル
スラ如是況ヤ念佛無上醍醐ノ法門何ソ猥リ
ニ思議ヲ容ンヤ又提婆墮獄ノトキ但南無ト
稱シテ無間ニ一劫受苦ノ後六十劫天上ニ生
シ終ニ緣覺ノ果ヲ得テソノ名ヲ南無ト號ス
ルコト釋迦譜第六ニ増一阿含ヲ引カ如シ今
異解者流ヨクオモヘ猥リニ妄分別ヲ師トシ
テ總テ佛法不思議ノ徳用ヲ輕賤ス狂亂ノ一

(上29裏)

禮一稱并ニ童子ノ戯レマテ不思議ノ利益ヲ
ウルコト諸文ニ明鏡タリ然ルニ異執ニ追隨
スル愚輩己カ心ヲ量トシテホシイママニ人
ヲシテ佛事ノ中ニ於テ輕蔑ノ心ヲ生セシム
甚タ慎ミ懼ルヘキコトナリ今此傍論急用ナ
ラストイヘトモ人ヲシテ輕法ノ心ヲ改メシ

メンタメニ粗コレヲ示スノミ

願生歸命辨卷之上

(下1表)

願生歸命辨卷之下

第六廣通妨難トハ問云世上ニ已ニ佛ヲタノミ
タリトイフ人ノ中ニ雜行雜心ナトノ機アリコ
レモ亦往生治定トイハンヤ

答曰雜行雜修ラステテ一向一心ニ歸命シ佛ノ
方ヨリ往生ハ治定セシメタマフト信セヨトコ
ソススメタマヘイツカ疑心自力ナカラ生スル
トススメタマヘルヤ今所問ノタクヒハタタ南
無ノ少分ニシテ阿彌陀佛ノ義ニ合セス然レハ

(下1裏)

如實ニ聞信シテタノミタル人ニアラス
問愚昧ノ人雜行雜修等ラスツルワケヲモシラ
スタタタノミテ往生スルト信スルハカリナリ
何ソタタタノムニテ往生ヲ印定センヤ

答機ニ直進回心アリハシメヨリ雜行等ヲタノムコトナクタタ一心ニ必至ト彌陀ヲタノムハカリニテ佛願ニ乘シ疑ナキ人ハソノ中ニスツルイハレハコトコトクコモルナリ若廻心ノ機ナラハ本願ヲ聞テモトノ心ヲヒルカヘシ彌陀ヲタノムトキ雜行自力等ハ見ステタルナリ

(下2表)

問タノミシ時ハタタカリソメノヤウニテ後ツフサニ聞ヒラキテ如實ニ信スル人アリ此人ノ初メタノミシハタタ方便ノ分齊ナルヘキヤ答今問トコロハ容有³⁴ノ一類ナリソレヲ以テ正化ノ通軌ヲ妨クルコトナカレ但シ所問ノ如キモ初ノタノミシトキ御タスケ一定ナリケルモノヲト疑³⁵ヒラケナハ何ソ方便分齊トセンヤ譬ハ日出ノ時小シクモリアリテサテ後ニクモハレタルトキ日光方ニ明ナレハトテソノ時ヲハシメテ日出トハオモフヘカラス然レハ最初ノ(下2裏)

歸命ト隔時ノ決定心ト一體ニシテ成ス凡夫ニ在テ隔時ノヤウナレトモ所歸ノ佛ニ於テハ前

功存「願生歸命弁」の本文研究(一)

後ナシ然レハ後ニ重テ改メタノムニハ及フヘカラス然シ先ニ歸命セシハ一向ニモアラス自カモアリ或ハタシカニオホエシニモアラスナトト自ラ心カカリニテタノミアラタメタクオモハン人ハ改ルコト失ニモアラサルヘシ但シ已ニタノミシ心ハヨハカリシナトトアヤフムハヒカコトナリ心ノツヨキヨハキニハヨラス

(下3表)

タトヒ深ク強シトテ凡夫ノ心ハ何ホトノコトカアルヘキヤタタ願力ノ不捨ナルコトヲ信スレハコレ他力ノ深信ナリタスケタマフハ不可思議ノ願力ナリトイフコトヲヨクヨク信スヘキナリ然ルヲ好テシハシハタノミアラタメナハ幾度ニテモ心ハ定ルヘカラス例セハ易ノ再三スレハ潰ルト云カ如シ彼ハ天ヲ疑テ再三ス今ハ機ヲ目アテニシテアラタメタク思フヨクヨク思ヒ合スヘシ

問タノミシト云ハカリニテ自力疑心モ離レスシテ死スルモノアラハイカニ

(下3裏)

答ソレカ如キハ如説ノ歸命ニアラス或ハ善本
 或ハ自力ヲタノムノ類ナリ如實ニ彌陀ヲタノ
 ミシ人トハ云ヘカラス宿善ニ差別アレハカラ
 及ハヌコトナリ私ニ案スルニタタ佛ヲタノム
 ト云ハカリハ欲生心ノ相ナレハ十八十九二十
 三願ノ機ニワタルヘシ其中ニ自力ノ善ヲ發願
 回向シテタノミナカラ臨終マテ決定心ナキハ
 十九願ノ機ナルヘシ或ハタノミナカラ疑心自
 力ニシテ名號ニ功ヲ入ナハ往生ヲモトクヘシ
 ヤトハケム類ハ二十願ノ機ナルヘシコレラハ
 (下4表)

雜行ヲタノミ善本ヲタノム人ナリ佛智本願ノ
 彌陀ヲタノミタル人ニアラス故ニタタ來迎果
 遂ノ化土ノ果ヲウヘシカカル行人モアルヘキ
 コトナリトシルヘシ左ノ如キ雜行自力ナカラ
 タノム人モソノ益ムナシカラサルハ十九二十
 ノ願益ナリ恨ムラクハタタ第十八願ノ救命ニ
 應セサルコトヲ今眞宗ニススムルトコロハ第
 十八願ノ一心歸命ニシテ願力佛智ノ不思議ヲ
 タノム他力ノ信樂ナリ何ソ十九二十ノ機ニテ

例難スヘケンヤ

(下4裏)

問然ラハ如來ヲタノムト云言モ第十八ノ往生
 ト一決スルコトアタハス不定ナルラシヘナル
 ヘキヤ

答汝シラスヤ吾門ニツネニ教ヘタマフトコロ
 ハ我身ハ出離ノ縁ナキモノトミカキリ一心ニ
 阿彌陀如來後生タスケタマヘトタノミテ御タ
 スケ一定ト決定セヨトススメタマフコレ即チ
 一心歸命ノ中ノ稱彼如來名如彼如來光明智相
 トノタマフ如實ノ信心開發ノ相ナリ平生領解
 文ノ出言モマタシカリソノ正教ニ順スレハ明
 (下5表)

二十九二十ノ安心ヲ出テ第十八願ノ位ニ住ス
 ル行人ナリ何ノ疑難カアルヘキヤトヒタマ
 タマ一類アリテ十九二十ノ欲生心ニトマル
 モカノ歸命欲生ノ義ヲ廢スルニクラフレハソ
 ノスクレタルコトタタ霄壤ノミナランヤ謹テ
 告ク食傷ノ人アリシトテ斷食ヲススムルニ類
 スルコトナカレ

問已ニ眞實ニ願生心ハ發リナカラ身口ニアラ
ハシテタノミシコトナク往生ノ決定心アル人
アラハイカニ

(下5裏)

答コレ體ノ相ヲ含ムノ人ニシテ疑モナキ往生
人ナルヘシ願生ノ心オコレハ佛ニ向フナリ想
ニ動ケハ名言ヲ具スルナリシカレトモ三業ノ
歸命ヲススメタマヘルヲキキツツ私情ヲ執シ
テ歸命ノ相ヲ廢棄スルナラハ違教ノ失ハマヌ
カルヘカラス執ヲツノリテ教ニ違シナハ何ソ
本願ニ相應スルコトヲエンヨクヨクコレヲ思フ
ヘシ

問ソノ身口ヲ表スルハ何ノ爲ソヤ

答前二已ニ證文ヲ出ス何ソサラニ疑怪ヲ懷シ
(下6表)

タタ論主ノ一心歸命盡十方無礙光如來願生安
樂國トノタマヘルニマカスヘシ一心卽三念門
ナレハ行ナリ三念門スナハチ一心ナレハ信ナ
リ信行融卽ニシテ卽他力ナリ汝カ如クイハハ
日用ノ禮拜稱名モ廢スヘケンヤタタシユヘアリ

功存「願生帰命弁」の本文研究(二)

テ表スルコト能ハサルモノヲ除クコト上二具
ニ辨スルカ如シ然ルニ近來ノ異解者ハ第一ニ
意業ニタノミ奉ルヲキラヒテ身口ヲ貶スルニ
及フソノ失ハ上ノ道理文證等ニテ知ルヘシ彼
カススムルトコロ畢竟十劫タノミニクミスカ

(下6裏)

ノ十劫祕事ハ淨華院流ノ中ヨリ出タルトカヤ
楷定記ニハ有人ノ説トテ擧テコレヲ破セリ今
ノ異解者我計スルトコロヲ十劫祕事ニアラス
トテサマサマ路ヲカヘ手ヲツクシ我カ失ヲマヌ
カレントテ御文章ヲ會スレトモ不能³⁹⁾

問異解者流ノ僧俗多ク謂ク南無阿彌陀佛ノ中
ニ南無ハコレ歸命ナリ何ソ別ニタスケタマヘ
トタノムコトヲ用ンヤト荒言スルハイカカ

答ソノ名號ヲ行者カ安心トヒラキナスユヘニ
ソノ名號ヲキキ得テタスケタマヘトタノミ其
(下7表)

タノミ奉ル一念御タスケ一定ト信セシムルナ
リ南無ニ具スルトテ行者カ欲生心ヲ廢セハ阿
彌陀佛ニ具スルユヘトテ御タスケ一定ト信ス

ルコトモ無用トスヘケンヤ彼カ如クイハハ唯
法ニシテ機ニ被ラス譬ハイマタウヘサルタネ
ノ如ク印セサル板木ノ如シ今名號ハ行體ナリ
タノミテ往生決定スルハ信相トアラハレタル
ナリタネノ苗トナリシカ如シ因ニ其信行ノ前
後ヲイハハ所行ヨリイヘハ行體信相ナリ能行
ヨリイヘハ信體行相ナリ

(下7裏)

問心ニタスケタマヘト念シテ名號ヲ稱シタル
トキ即得往生ト信スルハコレタノムニアラス
ヤ

答心ニタスケタマヘト念シテ稱名セシハコレ
タスケタマヘトイフト別ハナキナリソノ名號
ヲ信トナシテススメタマフ故ニ祖師モ南無阿
彌陀佛トタノマセタマヒテトノタマヘリ但シ
皇和ノ人ヨク解スルトコロナレハ國語ニテ阿
彌陀如來タスケタマヘトタノメトススメタマ
ヘルナリ何ソ煩ク疑議ライレンヤ復ソノ南無
(下8表)

阿彌陀佛トタノメトノタマフコトヲ蓮宗主タ

シカニタシカニシラセテ阿彌陀如來タスケタマヘ
トタノメトラシヘタマヘルコト御持言ニ見タ
リコノコト御自身ノ私ニアラサルユヘ願誓ヘ
告テノタマハク彌陀ヲタノメトラシヘハシメ
タル人ヲシリタルカトノタマフ願誓存知セス
ト答ラレケレハ師ノタマハクタノメトラシヘ
ハシメシ人ハ阿彌陀如來ナリトノタマヘリ今
ハタタ私ノ妄分別ヲヤメテ善知識ノ相承ヲ奉
持スヘシ

(下8裏)

問有人イハク念念ノ稱名スナハチコレタノム
ナリ何ソ別ニタノムコトヲ用ユヘキト
答返實シテ云ヘシタスケタマヘトオモヒテ念
念スル故カ又願心ハナケレトモ南無ノ二字ニ
歸命アルユヘニト云コトニヤトニカクニ吾門
ノ安心ニハ大二相違セルナリ口傳鈔ニノタマ
ハク一念無上ノ佛智ヲ以テ凡夫往生ノ極速ト
シ一形憶念ノ名願ヲ以テ佛恩報盡ノ經營トス
ヘシトツタフルモノナリ又一念ヲ以テハ往生
治定ノ時剋ト定ム等トモ平生ノ時一念往生治

(下9表)

定ノウヘノ佛恩報盡ノ多念ノ稱名トナラフト
コロナリトモノタマヘリヨクオモヘタスケタ
マヘノ一念ヲキラフ人八十劫タノミノ僻解ニ
墮シ又念ノ稱名ヲ常タノミノココロナリト
ハ鎮西ノ徒ニ類ス熟思シテ異途ニ走ルコトナ
カレ又念ノ稱名ヲツネニタノミニスルココ
ロユヘトイハハコレ相續憶念ノ義ニシテ一念
發起ノ歸命ノコトニアラスコレヲ以テタノミ
奉ル一念ヲ無用トハ云ヘカラス又右ノ如キ固
執ハ報恩稱名ノ義ニモソムケリ應知

(下9裏)

問上ノ如クナラハ一念義ノ異計ニハ濫スマシ
キヤ

答信ヲハ一念ニ生ルト取テ行ヲ多念ニ相續セ
ヨトハ黒谷ノ常談聖覺法印モコレヲ傳テ正義
トセリ凡夫自力ノ一念稱名ヲ執シテ多念ノ稱
名ヲ廢スルナラハコソアラメ他力歸命ノ一念
カノ佛願力ニ乗シテ往生決定ト信シテ唯能常
稱如來號ト行住坐臥ニ報恩ノ稱名スルノ安心

功存「願生歸命弁」の本文研究(一)

ナルモノヲ何トテ異計ニ同ストセンヤヨクオ
モヘ今ススマタマヘルトコロ自ノ行ニツキテ
(下10表)

一念往生ヲ論シ以テ多念ノ稱名ヲ拂ト云ニハ
アラスタタ歸命ノ信心決定ヲ教ルノ一念ナリ
一念ノ邪計トソノ體大ニ別ナリ何ソ異見ヲラ
シタテテ妨難ヲ構ンヤ況ヤ又一念業成ノ義ハ
元祖ノ御相傳ナルヲヤ

問祖師ノ佛智ノ不思議ヲタノムヘシトノタマ
フト今ノ彌陀ヲタノムト云ト差別アリヤ
答祖ノノタマヘルハ十九二十ノ信相ニエラヒ
信樂ノ體ヲ示シタマフトミエタリ第十八願ノ
欲生ハ佛智不思議ヲタノム道理ナルコト上ニ
(下10裏)

辨スルカ如シ其中他力ヲタノミ佛智ヲタノム
トハ多ハ憑ノ字ノ義ニシテ常恆ニワタルノ語
ナリ御文章ニイヨイヨタノモシキナリ又本願タ
ノム等トノタマフノ類ナリ又今論スル一念ニ
彌陀ヲタノムノ義祖師ノ南無阿彌陀佛トタノ
マセタマフナトノタマフハ歸命願生ノ義ニシ

一三九

テソノ信樂開發ノ場ナリ【云云】

問有人ハ彌陀ヲタノム一念ヲタノミニスルト
一混シテソノタノミニスルト云義ヲトレリ今
ナンソソノタノミニスルト云ヲトラサルヤ

(下11表)

答前ニイハスヤ彼カ偏ニタノミニスルト解ス
ルコトノ非ナルナリ處ニヨリタノムト云言ヲ
タノミニスルコトニ解スヘキ處アレトモ願生
歸命ヲ佛ニ向ヒテノヘアラハス初發ノ一念ハ
タノミニスルトイフノミニハアラスコレ願求
シテタスケタマヘトタノミタテマツルコトナ
リ上ニ具ニ述ルカコトシ然シタノミニシテタ
ノムト云カ又タノミテタノミニスルト云コト
ハ通スヘシ歸命スルヲ直ニタノミニスルトハ
カリ云テ御タスケ候ヘトタノムコトヲ廢スル
(下11裏)

ハ決シテ非ナリツネニ藥ヲタノムト初テ醫師
ヲタノムトノ例ニテシルヘシ或カ正信僞ノ聞
書ト云書ヲ引テタノミニスルト云義ヲ立レト
モ依用ノ書ニアラス

問有人ノ立ルハタノムモアシキコトニモアラ
ネトモコトアタラシクタスケタマヘナト云ハ
イマタ我等カ爲ノ本願トイフコトヲシラヌユ
ヘナリ實ニ佛智ヲ信スレハタスケタマヘトタ
ノムニハ及ハヌコトナリ又タノムヲトリコニ
スルハミナ自力ナリトイフハイカカ

(下12表)

答和讃ニ淨土ノ大菩提心ハ願作佛心ヲスス
シム等又盡十方ノ無礙光佛一心ニ歸命スルヲ
コソ天親論主ノミコトニハ願作佛心トノヘタ
マヘトノタマフ如實ニ一心歸命スル願生心ス
ナハチ願作佛心コノ心即本願ノ救命ニ順スル
大菩提心コレヲ他力ノ信心トイフナリ又コト
新クタノメハコソ轉迷開悟ニテハアレ他ノ始
知衆生本來成佛ノ文ヲ以テ例知セヨ今モ聞エ
テ爲物ノ大悲ヲ了知スレハコソ歸命ニテハア
レ實ニ佛智ヲ信スレハコソ決定心ヲ成スレ然
(下12裏)

ルニタノムヲトリコニスルナトキヲフハ彼
カ病目ナリ一心ニ彌陀ニ歸命スレハ不可思議

ノ願力トシテ佛ノカタヨリ往生ハ治定セシメ
タマフトノタマヘリ如是ヨク教ニ順ス何ソ邪
ニ妨難ヲ構ンヤ有人ノココロハ眞門ノ宗轍ヲ
改テ己レカ妄分別ノ功ヲ立ントオモフクセ法
門ナルノミ例セハ教道ヲステテ證道ヲトラン
トスルカ如シアニ道理ノアルヘケンヤ通シテ
ハ諸佛說法常依二諦ノ法式ヲシラス近クハ相
承ノ宗義ヲ破ルノ人ナリ今佛ニ向ヒ一念歸命

(下13表)

スルコトハタトヘハニケアルクモノヲヨヒカ
ケテフリカヘラシメタルカ如シコレヲ廻心ト
名ク凡ソ法性ノ理ハ迷悟不二ナレトモ衆生ハ
コレニ迷テ背覺合塵ノ地ニ住ス故ニ佛無差別
ノ中ニ差別ノ大願ヲ發シ差別ノ衆生ヲシテ無
差別ニカナハシムコノ故ニ差別ノ門ヨリ入サ
レハ無差別ニカナフコトアタハス例セハ釋尊
體內ノ權實ヲ以テ妙法ヲ莊嚴シタマフカ如シ
體內ノ權ヲステテ實イツクニカモトメンヤ今
聞其名號ニヨリテ一念歸命シ即チ佛ノ攝取ニ

(下13裏)

アツカルソノモトハ佛ノ御メクミナリアリカ
タヤ南無阿彌陀佛トヨロコフ外ニ何ソ別ノ信
心ヲモトメンヤコノ宗轍ニテ何ホトモ他力ノ
法門ハノヘラルヘキコトナルニ何トテ御文ノ
常教ヲキラヒニクメルヤ異解者ハ行者カウヘ
ニアラハルル三業ヲ廢シテ直ニ佛體ニツカシ
メントスコレ即チ稱禮念スレトモ自ノ行ニ非
ス阿彌陀佛ノ行ヲ行スルトイフニソムキ又今
コノ信スルココロモ念スルココロモ阿彌陀如
來ノ御方便ヨリオコサシムルモノナリトノタ

(下14表)

マヘルヲ用ヒス進テハ欲生即信樂ナルノ相ヲ
シラス退テハコノ欲生即チ佛ノ招喚ヨリオコ
ルコトヲオモハサルナリタタ遮情ノ一隅ヲ執
シソノ三隅ヲ毀滅スルユヘニソノ一隅モ亦全
キコトヲ得ス^④ヨク沈思シテ情ヲ去リ教ニ順
スヘシ其教ニ順シ安心決定スレハコノ信スナ
ハチ金剛心ナリ大菩提心ナリ希有最勝ノ大信
眞如一實ノ信海等ト讚シタマヘリコレミナ行
者歸命ノ一心ヲハナレテ讚シタマフニハアヲ

スコノ故ニ行者ノアシキココロヲ如來ノヨキ
(下14裏)

御ココロト同シモノニナシタマフトモ彌陀ヲ
タノメハ南無阿彌陀佛ノ主ニナルトモノタマ
ヘリ然ルニ異解者ハ至心信樂マテラワスレヨ
トススメテ遮情ノ一分ヲ執シ他人ハコレヲシ
ラストテマタナキ物ヲホリ出シタルヤウニ傍
若無人ノ荒言ヲハナチ愚俗ヲ誑ントスレトモ
ソノ義ヲ糺明スレハタタコレ遼東ノ豕ナルノ
ミ
上來所辨⁴²ノ趣ハ事緣ノ急ニスルコトアリテ思
ヒ出ニマカセ略シテ六章ヲ立テ新學ノ小僧ニ
(下15表)

筆記セシムソノ事緣ト八年來支流ノ中ニ「其一黨ハ
彌陀ヲタノム一念歸命ノ處ニ御タスケ一定ト信スルモノヲ貶シ報謝ノ
*稱名ヲススムルコト
ヲ大ニキラヒニクメリ剩へ領解出言ナト云コトヲ廢シテ其誨ヲ受ル末
*末ハ一向其改悔文ヲ
記得スルモノナキニ至ルトカヤ今其迷源ヲハカリ思フニ世間ニ如來ヲ
*タノミ領解シタリト

イフ中ニ聞信不具ニシテ心口各異ナルモノアルヲ見テヒトヘニ機邊ノ
*三業ヲ浪シ法體ニ直

契セシメント邪思惟ヲ凝シ⁴³不覺迷路ニ入り古轍ヲソムク様ニナリユキ
*シナルラン古徳ノ所

謂食ヲ嚼テ人ニ與レハ其味ヲ失スルノミナラス人ヲシテ嘔噦セシムル
*ノ類ナリ⁴⁴不如ソノ分

ヲ守テ知識ノ古教ヲ遵奉センニハ鳩ヲコロサントテ菽ヲ不蒔ト云諺ニ
*ナラフモノハ可哀哉⁴⁵

其末末影ニ吠ノ虛ヲ傳テ聲ニ噉スルトモカラシハシハ千古不改ノ經常
*宗義ヲ申シミタルコ

ト蔓延ナラントス豈眞道ノ荆棘ニアラサランヤ此時ニアタリテ吾輩不
*尙ナリトイヘトモ何

(下15裏)
ソ好辨ノソシリヲカヘリミンヤタタ願畏スルトコロ彈斥ヲ帶ルノ法門

*ハ攻撃ノ劑ヲ用ルニ
似テ眩暈シハラク自他ノ和氣ヲ損センカ慚懼慚懼」上來所評ノ僻說ヲ

*骨
張シテ州郡ノ正信ヲ壞スル風聞アリトイヘト
モ吾曹ノ諸女侶ニハ敢テ阿黨ノ者モ無リシニ
魔風扇動シテ近頃其妖說ニ習染スルノ徒アル

ヨシ州ノ護宗録司ヨリコレヲ牒狀シテ

本願法王ヘ申請シソノ魁首ナルモノヲ福府ノ

教廳ニ繫留セラレ州中ニテ學林臘長ノ者ヲ招

キ邪正ヲ甄辨セシメラルルニヨリテ辭讓スル

コトヲ得ス「予」モ其數ニ預リ諸老ト共ニソノ迷

(下16表)

妄ヲ糺シ畢ヌ「コノ時二三子ノ請益ニヨリテ此草ヲ起スナリ」重テハ

*カ

ラスモ福府ノ寶坊ニ於テ州郡御門葉ノ爲ニ斷

疑生信ノ法筵「寶曆壬午二月晦三月朔兩日四座法譚」ヲヒラクヘキ

ヨシノ別命ヲ蒙リ奉リアフケナク不才ノ堪サ

ルヲ忘レ讓劣ノ涯分ヲツクシテ上件ノ六門ヲ

綱舉シテ宣演ス因茲重テ前草ヲ繕録シ本山并

ニ學林ニ呈上シ諸大徳ノ昭鑑ヲモトムルノミ

越前文珠山陰平乘寺釋「功存」口説門人「功慧等」筆記

(下16裏)

追加

或カ來テ問曰有人説ク本願ノ三信ヲ案スレハ

功存「願生歸命弁」の本文研究(一)

至心トハ大地ヲウツニウチハスサヌココロモ

チ信樂ハアラアリカタヤトオモフナリ欲生ハ

アラタノモシヤトオモフココロナリシカレハ

タノムト云ハタノモシクオモフココロタノミ

ニスルココロヲコソイヘタスケタマヘト一念

タノムヲ云ニハアラスシカレハ念念ノ稱名ハ

タノモシヤタノモシヤト念佛スルナリト盛ニ

コノオモムキヲ以テ愚俗ヲ誘フ此コトイカカ

(下17表)

アルヘキヤ

答ソノ說一往イハレアルニ似テソノ本心ハタ

タタスケタマヘト彌陀ヲタノム一念ヲ廢捨セ

ン爲トキコエタリソノ義上ニ具ニ述ルカ如シ

凡ソ吾宗ニ教ヘタマフ處憶念相續ノカタハ攝

取不捨ノウヘノ歡喜報恩ノ稱名ナレハ彼カ所

談ニ似タレトモ彼ハ願生歸命ノ一念ヲ廢スル

ココロユヘ大ナル相違ニテハアルナリサレハ

蓮宗主ノタマハク本願ヲタノムトハイヘトモ

彌陀ヲタノム人ナキユヘニ往生ヲトクル人ハ

(下17裏)

マレナリトノタマヘリヨクヨクコレヲ思フヘシ
 今子カ尋ルトコロハ一念發起ノ信相續ノ相ナ
 リソノ往生ヲ決定スル處一念歸命開發ヲ要ト
 スヘキコト經論知識ノ誠說ナリソノ一念ヲ以
 テ往生治定ノ時刻ト定テ佛恩ノ稱名相續セヨ
 ト教ヘタマヘリ故ニ蓮宗主ノ語ヲ傳テイハク
 ヨロコフココロヲ以テ往生ヲサタメントスル
 ハアトラムスハヌ絲ニテモノヲヌフカ如シ佛
 モヨロコフモノヲタスケントノ本願ニハアラ
 スタノムモノヲタスケントチカヒタマフト然
 (下18表)

ルニタノムト云コトヲ偏ニ自力トキラフ人ハ
 ソノ内心ニ御文章ヲ方便説トキラフ心トミエ
 タリ抑一心歸命往生決定ノ信ハモト佛願力ヨ
 リオコサシメタマフココロナリ喩ハ啐啄同時
 ノ如シ鶏ソノ卵ヲ抱クニ由テ小鶏卵殻ノ中ニ
 アリテ欲出ノ心生シ嘴ヲ以テ吮ル母鶏ソノ時
 ヲマチエテ出サンコトヲオモヒ外ヨリ嘴ヲ以
 テ殻ヲ嚙ム小鶏殻ヲ出テ母鶏ヲシタヒマタ其
 翼下ニカクルソノ母鶏ヨリミレハコレヲ抱キ

アタタメシヨリ欲出ノ心ヲ生セシメテ殻ヲ出
 (下18裏)

ツ雛ヨリハ欲出ノ心生シ嘴ヲ動テ出ルトオモ
 フトモソノモトハ皆母鶏ノ力ナリ又早く出サ
 ントオモフトモ未發欲出心モノハ出シテ雛ト
 ナスコトアタハサルカ如シ今例シテオモフニ
 光明名號宿善善知識等時機純熟シテ一念發起
 スルハ佛ノ心光ニ攝セラルル時ニシテソノ實
 ハイツレヲ先ンストモ分ツヘカラストタ本願
 名號ヲキキ一心ニ阿彌陀如來タスケタマヘト
 タノミ佛ワレヲ攝シタマフト信シテヨロコフ
 ソノ信心ハモトコレ光明名號ノ兩翼下ニ生ス
 (下19表)

ル他力廻向ノ一念ナリソノ時無明ノ卵殻破レ
 テ正定ニ住シ大會衆ノ數ニ入ル是雛ノ母ノア
 トヲ追ヒ翼下ニ入ル等ニタトフヘシ一タヒ出
 テニタヒ卵トナラサル如クコレヲナカク生死
 ヲヘタテケルトノタマフ又ソノ光明ノ益モ歸
 命セサリシ時トハ同シカラス故ニ心光攝護ト
 云念佛衆生攝取不捨ト云卵ト雛トノ翼下ニ在

ル異ノ如シ今信決定ノウヘニハ佛ト行者ト互ニ憶念スル身トナリ本願ノ中心ニカナヘル故ニ攝取心光トハノタマヘリ彼力如クイハハ母
(下19裏)

ノ嘴ニテ不足ナケレハ子ノ出ント欲スルハ自力ナリ無用ナリト嫌ヒスツルココロナリヨクオモヘ時至リ出タクオモフモ母ノメクミヨリオコルコトナレハ何ソソノ欲出心ヲ捨ンヤ又カレハ相續ノ信相ノミヲ以テ一念發起ヲスツヨクオモヘ初ナキノ相續アランヤ善知識ノススメタマフトコロハ佛ノ本願ヲキキ一念歸命スレハ即得往生ト信セヨトヲシヘ玉フソノ後ノ相續ハヲノツカラ上ノ一念信ノ相續ナリ故ニ佛ト行者トハナルヘカラサレハ一生タタア
(下20表)

リカタヤト報謝ノ念佛申スハカリナリ又彼カ三信ヲ解スルニ彌陀ヲタノム行者歸命ノ一心ヲキラフココロヲ考フヘシ欲生ノ一心ヲアラタノモシヤト解スルナト云ハサテサテ誑シマキラスココロカナトニカクニタスケタマヘトタ

功存『願生歸命弁』の本文研究(一)

ノメトノタマフコトヲ廢捨セン爲トミエタリソノ義ハ上ニ具ニ述ルカ如シ又相續ノカタハタノモシヤトヨロコハンヨリハ御タスケアリカタヤト稱名スルコレ善知識ノ常教ナリ

又問云僧侶ノ唱導ノ語ニ一期ニ一タヒタノミ
(下20裏)

奉ルトキ往生決定ト疑ナク信セヨト云人アリ古人ノ書ニモ處處ミエタリ然ルニ近來異解者流コノ言ヲニクムコト毒ノ如ク怨ノ如クスルモノアリ此言實ニ失アルコトニヤ

答云コノ言ヲ嫌フモノハ心中一痼疾アリトシルヘシマツ物ヲ正ント欲セハソノ所對ノ言ヲヨクアキラムヘシコノ一期ニ一タヒタノミ奉ル時等トハ古來ヨリイフコトニテサラニアヤシムヘキニアラスコレ一念業成ノ異名一念發起ノムネ信樂開發ノ時節ノ極促トノタマヒ又
(下21表)

信ヲハ一念ニ生ルトトレトノタマフモノコレナリ是故ニ相承ノ正義ニソムク言ニハアラス汝ヨクキケ一期ニ一タヒタノメ二度三度スレ

ハアヤマリニナルソト云コトヲ所詮ニシテス
スムルモノアリヤソノ詮スルトコロハ往生決
定ノ相ヲ示ストテ一期ニ一タヒタノミタテマ
ツルトキ往生治定ナレハソノウヘハ報恩ノ稱
名セヨトススムルナリ然ニ有人コノ言ヲ嫌フ
ココロハ彼カ不決定ノ病目ナリ彼ハ二度三度
乃至臨終マテニテ往生治定ト領解スルヤヨク
(下21裏)

ヨクコレヲ思フヘシスヘテ吹毛求疵ノ人ニハ
カタルモ無用ノコトナリ今強テ文證ヲ求ルナ
ラハ歎異鈔云一向專修ノ人ニ於テハ廻心ト云
コト タタータヒアルヘシソノ廻心トハ日比
本願他力 眞宗ヲ知サル人彌陀ノ智慧ヲタマ
ハリテ日比ノココロニテハ往生カナフヘカラス
トオモヒテモトノココロヲヒキカヘテ本願ヲ
タノミマイラスルヲコソ廻心トハ申シ候へ「文」
コノ文ヲ見ヨ廻心トハ一向專修ニナルトキノ
コトナリソノ時彌陀ヲタノム一向專修ノ安心
(下22表)

コレ佛智廻向ノ心ニシテ往生治定スルニアラ

スヤ又別ニ一向專修ニアラサル十九二十ノ欲
生ノ人アルハ今ノ所論ニハアラサルナリ吾門
ニススメタマフトコロハ他力一向專念ノ歸命
ヲススメテ往生決定ヲ談ス然レトモ謗難ノ耳
ヲカタフケ心ヲ師トスルモノハカラ及ハヌコ
トナリ

問曰論註ニ一念十念ヲ解スルニ業事成辨ノ義
ヲトリテ一ト十トノ分別ヲハラヒ通神ノ所知
トノタマフ何ソ一念業成ヲ以テ要トスルヤ

(下22裏)

答彼ハ臨終ノ十念ニ寄テ業成ヲ示スソノ實ハ
信心業成ニアルユヘ下上品ハ一念ニヨセ下
品ハ十念ニヨストモニコレ業成ナリ蟪蛄ハ春
秋ヲシラス亦復夏ノ夏ナルコトヲモシラサレ
トモ蟪蛄ノ出ルハ必夏ナルカ如シ然レハカノ
一念十念ハコレ觀經臨終ノ相ニシテソノ口稱
ニ寄テ業成ヲアラハスナリコノ一念十念ハト
モニ臨終ノ發起セル歸命ノ時ノ延促ト見エタ
リ然ルニ今平生ニススムル一念發起即得往生
ハ信ノ一念業成ヲ要トセリコレハ大經第十八

(下23表)

願成就ノ文ニ依タマフコレ玄忠大師ノ蘊奥ト見エタリアア信スヘシ一念歸命〔有別篇辨〕

問曰末燈抄ニ一念發起ノ時無礙ノ心光ニ攝護セラレマイラセ候ユヘニツネニ淨土ノ業因決定スト仰ラレ候コレメテタク候カクメテタクハ仰セ候ヘトモコレミナ私ノ御ハカラヒニナリヌト覺ヘ候トノタマフ此御言ヲ以テ一念歸命ノ往生ヲ妨クルハイカカ通スヘキ

答曰所評ノ言ノ如ク安心決定セハ少モ失ハナカルヘケレトモ心口各異ニシテタタ分別ノ分(下23裏)

齊ナルヲ呵シタマフ故ニコレメテタク候ト印可シタルウヘニソノハカラヒヲ呵シタマヘリソノ口言ヲ執スルノミナラハイカヤウニ云モ如實ナラサルユヘソレライマシメン爲ニハ御自身ニモカク申モハカラヒニテ候トノタマヘリ又ツフサニ事モオホエヌヒトヒトノイロイロニ淨土ノ業因出世ノココロナトトコサカシク云ユヘコレラヲハラヒテ内ニ自ラ省ルコトヲ示

功存「願生佛命并」の本文研究(一)

シタマフトミエタリシカルニ此文ヲアシク解シテ一念歸命シテ佛ノ御タスケ一定ト信スル(下24表)

如實ノ安心ヲ廢センハ大ナル謬ナリ〔云云〕因ニ問信ト行ト報謝トノ交際ハイカカナルヘキヤ

答一念歸命ノ心ハ信ナリ三業ニワタルモ信ノ表相ニテモト信行融即ナレハ信ナリソノウヘノ稱名ヲ報謝ト分ツナリシカレトモ説必次第法在一心トイフコトク一念歸命即チ念佛ナレハ亦行ナリ乃至十念モ信ノ相續ナルヨリミレハマタ信ナリ無礙光如來ニ歸命シテ疑ハレタル處ニ即チ讚歎門ヲ含ムコレ名號ナリ又コノ信(下24裏)

佛心ニ契當スル處ハ報謝ノ體トモ云ヘシ三相トモニ他力廻向ノ一體ノ中ニ同時具足ス彌陀ノ名號トナヘツツノ讚フカク思ヘシ〔云云〕又更ニ小子ニ示ス眞宗ノ法門ヲ通論スルニ安心正因門建立教相門ノオモムキアリソノ建立門トハ藥ノ方法各味分量等ノ如シ安心門トハ

一四七

調合セル藥ノ如シソノ安心ハ一心ニ彌陀ヲタ
ノミ奉ル一念ニ御タスケ一定ト信シヨロコフ
外ハナシ調合セル藥ヲ服スルノ日ハ智愚トモ
ニ差別ナキカ如シ法談ナトハソノ藥ヲヒロム
(下25表)

ルカ如ク講論ハ藥ノ方味ヲ論スルカ如シ藥ヲ
ヒロムルモノモ藥方ヲ講スルモノモ自ノ病ヲ
治スルノ日ハ餘ノ病人ト同シクソノ調合セル
藥ヲ服スルヨリ外ハナシ謹テ請フ建立門ヲ安
心門ニ濫シ智愚一同ノ直路ヲ妨害スルコトナ
カルヘシ上來示ストコロノ通難多ハ義解ノ爲
ニシテ安心正因ノ爲ニアラス凡ソ世人義解ヲ
以テ安心トココロエソノスエハ種種ノ曲説ト
ナリテ大ニ安心門ヲ違害スルコトアリ甚ラソ
ルヘキコトソカシ殊ニ勸化讚歎ノ時ナトハ必
(下25裏)

カカル入クミタルコトヲ好ミ談スヘカラスト
テモラシナヘテ知ラスルコトモカナハスマタ
知タリトテ益モナキコトナリタタ彼佛ノタス
ケタマフイハレヲキキ自力雜行ノ心ヲフリス

テテ何ノ様モナク彼國ニ往生セント願テ阿彌
陀如來タスケタマヘトタノミ申シタルトキ御
タスケ一定往生決定ト信シテツネニ佛恩報謝
ノ念佛申スコソコレ智愚一同ノ安心報謝ナリ
トツネツネ自モ信シ他ニモ示シ候ナリ但シ同業
ノ淨侶中ニ在テ義ヲ論スルノ日ハ切蹉ヲユル
(下26表)

カセニセンモ本意ナキ事ナレハ疑問ノタタク
ニマカセテ思ヒヨルママヲ筆録セシム塗聽塗
說事縁モマタイソカハシアヤマルトコロハ親
友同行ノ刪正ヲ請ノミ

⁽⁵⁰⁾草辨因事草草傳寫亦慮慮焉往往失彼眞面目爾
故請上木師意不許我輩竊謀之劑剛氏雖復獲越
法於函丈庶幾頌玄賞於同好云爾癸未秋八月
越前淨土眞宗後學暢道廉溪玄仗等謹識

註

- (1) 訓点「一先釋、名義、二正學、相狀、三通辨、道理、四明出、文證、五因引、例證、六廣通、妨難、」
- (2) 訓点「釋、名義、」
- (3) 初刻本は墨書で左傍註記「依法苑殊林所引」、再刻本・三刻本は印刷で右傍註記「依法苑殊林」
- (4) 訓点「應、知、」
- (5) 訓点「二正學、相狀、」
- (6) 「偈初行」の三字、初刻本のみ印刷「主偈初」を消し上書訂正（再刻から「偈初行」）
- (7) 訓点「輕、」
- (8) 初刻本のみ「拜」（再刻から「昇」）
- (9) 訓点「有、三義、」
- (10) 訓点「六説、三歸、三業爲、性、」
- (11) 訓点「三通、辨、道理、」
- (12) 訓点「一、」
- (13) 訓点「如、是、」
- (14) 濁点「ギ、」
- (15) 訓点「黃、」
- (16) 訓点「入、地、遇、陰、而、成、」
- (17) 訓点「未、和、」
- (18) 訓点「惟、」
- (19) 訓点「四、明、出、文、證、」
- (20) 訓点「三、明、彌、陀、在、空、而、立、者、但、使、廻、心、正、念、願、生、我、國、立、即、得、生、又、曰、衆、生、貪、瞋、煩、惱、中、能、生、清、淨、願、往、生、心、云、云、綽、大、師、云、大、經、曰、欲、往、生、淨、土、要、須、發、善、提、心、爲、源、云、何、善、提、乃、是、無、上、佛、道、之、名、也、若、欲、發、心、作、佛、者、此、心、廣、大、周、遍、法、界、此、心、長、遠、盡、未、來、際、此、心、普、備、離、二、乘、障、若、能、一、發、心、傾、無、始、生、死、有、輪、玄、簡、大、士、曰、以、信、佛、因、緣、願、生、彼、國、佛、力、住、持、等、又、曰、諸、聞、阿、彌、陀、德、號、信、心、歡、喜、慶、所、聞、乃、暨、一、念、至、心、者、回、向、願、生、皆、得、往、云、云、論、主、曰、世、尊、我、一、心、歸、命、盡、十、方、無、礙、光、如、來、願、生、安、樂、國、云、云、龍、尊、曰、若、人、願、作、佛、心、念、阿、彌、陀、應、時、爲、現、身、是、故、我、歸、命、云、云、阿、彌、陀、經、曰、應、當、發、願、願、生、彼、國、又、曰、已、發、願、今、發、願、當、發、願、欲、生、阿、彌、陀、佛、國、者、是、諸、人、等、皆、得、不、退、轉、於、阿、耨、多、羅、三、菩、提、於、彼、國、土、若、已、生、若、今、生、若、當、生、云、云、觀、經、曰、若、有、衆、生、願、生、彼、國、者、發、三、種、心、即、便、往、生、何、等、爲、三、一、者、至、誠、心、二、者、深、心、三、者、廻、向、發、願、心、具、三、心、者、必、生、彼、國、文、大、經、曰、其、有、至、心、願、生、安、樂、國、者、可、得、智、慧、明、達、功、德、殊、勝、又、曰、其、佛、本、願、力、聞、名、欲、往、生、等、第、十、八、願、成、就、文、云、聞、其、名、號、信、心、歡、喜、乃、至、一、念、至、心、廻、向、願、生、彼、國、即、得、往、生、住、不、退、轉、本、願、文、曰、
- (21) 濁点「ド、」
- (22) 訓点「稱、」
- (23) 訓点「遙、招、手、江、陵、暗、」
- (24) 訓点「陀、」
- (25) 訓点「力、」
- (26) 「セシ」の二字、三刻本のみ「シ玉ヒシ」
- (27) 初刻本のみ「ウ」（再刻から「フ」）
- (28) 訓点「因、引、例、證、」
- (29) 訓点「經、曰、於、是、阿、難、起、整、衣、服、正、身、西、面、恭、敬、合、掌、五、體、投、地、禮、無、量、壽、佛、白、言、世、尊、願、見、彼、佛、安、樂、國、土、及、諸、菩、薩、發、聞、大、衆、說、是、語、已、即、時、無、量、壽、佛、放、大、光、明、」
- (30) 訓点「如、是、」
- (31) 訓点「即、」
- (32) 訓点「如、是、」
- (33) 訓点「六、廣、通、妨、難、」
- (34) 「容有」の二字、三刻本のみ右に並記「漸進」
- (35) 訓点「疑、」

- (36) 訓点「便」
- (37) 再刻本・三刻本は「フ」(二画欠損)
- (38) 初刻本のみ訓点「十」
- (39) 訓点「不能」
- (40) 訓点「如_レ是」
- (41) 濁点「ズ」
- (42) 訓点「所_レ辨」
- (43) 訓点「不_レ覺」
- (44) 訓点「不_レ如」

- (45) 訓点「不_レ詩」
- (46) 訓点「可_レ哀」
- (47) 訓点「因_レ茲」
- (48) 訓点「未_レ發_レ欲_レ出_レ心」
- (49) 訓点「吹_レ毛_レ求_レ疵」
- (50) 以下の刊語は子持梓内、小字「二」は踊り字と判断した

(殿内 恒、井上 善幸、堀 祐彰、那須 良彦、藤田 真証)